

対象校No.

注4

学校コード F113310103439

注3

設置年度 令和 6年度

計画の区分： 研究科の設置

注1

届出

注2

日本女子大学大学院 建築デザイン研究科

【届出】設置に係る設置計画履行状況報告書
(改正後大学設置基準適用)

学校法人日本女子大学
令和7年5月1日現在

作成担当者

担当部局(課)名 教学企画部 大学再編準備室

職名・氏名

電話番号

(夜間)

e-mail

- (注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。
- 2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。
設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に
()書きにて、設置時の旧名称を記載してください。
例) 〇〇大学 △△学部 □□学科
(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))
表題は「計画の区分」に従い、記入してください。
例)
・大学の設置の場合：「〇〇大学」
・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
・大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
・大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」
- 3 学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。
なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、
当該番号を記載してください。
https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html
- 4 対象校No.については、「【別紙】令和7年度AC報告書提出対象学科等.pdf」より、
該当番号を記載してください。

目次

建築デザイン研究科

＜建築デザイン専攻（M）＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	12
4. 既設大学等の状況	13
5. 教員組織の状況	15
6. 附帯事項等に対する履行状況等	23
7. その他全般的事項	25

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人日本女子大学

(2) 大学名

日本女子大学大学院

(3) 調査対象大学等の位置

〒112-8681

東京都文京区目白台2丁目8番1号

(注)・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。

・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(イマイチ リョウコ) 今市 涼子 (令和5年1月)		
学長	(シノハラ (クマ) サトコ) 篠原 (隈) 聡子 (令和2年5月)	(シノハラ (クマ) サトコ) 篠原 (隈) 聡子 (令和6年5月)	任期満了に伴う選任(重任) 令和6年5月27日変更 (7)
研究科委員長	(サトウ カツシ) 佐藤 克志 (令和6年4月)		
専攻主任	(コレサワ ノリコ) 是澤 紀子 (令和6年4月)		

(注)・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を

()書きで記入してください。

(例) 令和6年度に報告する内容 → (6)

令和7年度に報告する内容 → (7)

・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載 (昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正) するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。

・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。

・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
- ・なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください。
 - ・様式は、令和2年度開設の4年制の学科が完成年度を越えて報告する場合(令和7年度までの6年間)ですが、設置計画履行状況調査の対象期間が7年を越え、様式に変更が必要な場合には、別途ご連絡ください。
 - ・留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「留学」の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) -① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
建築デザイン研究科 建築デザイン専攻(M) 修士(建築デザイン)	工学関係 家政関係	2 年	20 人	0 人 2年次 3年次 4年次	40 人	-	【基礎となる研究科等】 家政学研究科 住居学専攻

- (注) 定員を変更した場合は、「備考」に変更前的人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
- ・基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
 - ・「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1)又は(その2の2))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
 - ・学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止(予定)」と記載してください。(学生募集停止を予定していない場合は「-」を選択。)

(5) -② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		春季入学以外の 学期区分について	収容定員 充足率	収容定員 充足率 (控除後)	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期				
A 入学定員	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	-			
志願者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	春季入学以外 の入学時期と 入学定員内訳			
受験者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []		1.28倍		
合格者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []				
B 入学者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []				
入学定員超過率 B/A	-	-	-	-	-	-	-	-	1.25	1.3						

- (注) 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・調査対象学部等の開設年度から報告年度まで記入してください。なお、開設年度以前は「-」を記入してください。
 - ・()内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年度で行っている場合には、(())書きとするなど、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・転入学生は記入しないでください。
 - ・[]内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期は「-」を記入してください。
 - ・「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
 - ・報告年度に春季入学以外の学期区分の設定を予定している場合は、「春季入学以外の学期区分について」で「春季入学以外の学期区分を設ける予定」を選択するとともに、下欄に、入学時期と入学定員の内訳(予定を含む)を記載してください。(春季入学以外の学期区分の設定を予定していない場合は「-」を選択。)
 - ・「収容定員充足率」には、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引(令和8年度開設用)IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。また、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の収容定員充足率を記載してください。
 - ・「収容定員充足率(控除後)」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「-」としてください。
 - ・「(5) -② 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等」の「平均入学定員超過率」及び「収容定員充足率」は、「4 既設大学等の状況」AC対象学部学科等の倍率と一致しますので、留意して計算してください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	-	-	-	-	-	-	-	-	25	-	26	-	
	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[4]	[-]	[1]	[-]	
	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	
2年次			-	-	-	-	-	-	-	-	25	-	
			[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[4]	[-]	
			(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	
3年次					-	-	-	-	-	-	-	-	
					[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	
					(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	
4年次							-	-	-	-	-	-	
					[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	
					(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	
計	-	-	-	-	-	-	-	-	25	-	51	-	
	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[4]	[-]	[5]	[-]	
	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	

- (注)・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ [-]内には、留学生の状況について、**内数**で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、**内数**で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。
 - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
令和2年度	- 人	- 人	令和2年度	- 人	- 人	
令和3年度	- 人	- 人	令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
令和4年度	- 人	- 人	令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	- 人	- 人	
令和5年度	- 人	- 人	令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	- 人	- 人	
			令和5年度	- 人	- 人	
令和6年度	25 人	0 人	令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	- 人	- 人	
			令和5年度	- 人	- 人	
			令和6年度	0 人	0 人	
令和7年度	26 人	0 人	令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	- 人	- 人	
			令和5年度	- 人	- 人	
			令和6年度	0 人	0 人	
			令和7年度	0 人	0 人	
合計		0 人		0 人	0 人	

- (注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。
 - ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
 - ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生、転科生も含めて記入してください。
 - ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「修学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・修学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(a+b)}} = \frac{-}{\#VALUE!} = \boxed{-} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(a+b)}} = \frac{-}{\#VALUE!} = \boxed{-} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(a+b)}} = \frac{-}{\#VALUE!} = \boxed{-} \%$$

【令和5年度】

$$\frac{\text{令和5年度の退学者数(a)}}{\text{令和5年度の在学者数(a+b)}} = \frac{-}{\#VALUE!} = \boxed{-} \%$$

【令和6年度】

$$\frac{\text{令和6年度の退学者数(a)}}{\text{令和6年度の在学者数(a+b)}} = \frac{0}{25} = \boxed{0} \%$$

【令和7年度】

$$\frac{\text{令和7年度の退学者数(a)}}{\text{令和7年度の在学者数(a+b)}} = \frac{0}{26} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<建築デザイン研究科 建築デザイン専攻 (M) >

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
研究科共通科目	建築デザイン研究	1前	2			9	1					
	小計(1科目)	-	2	0	0	9	1	0	0	0	0	
講義科目	住居・建築計画論	1前	2				1					
	ユニバーサル環境論	1前	2			1						
	防災・安全性能論	1後	2			1						
	保存再生論	1後	2			1						
	都市・地域居住論	1前	2			1						
	建築論	1前	2			1						
	環境・設備システム論	1後	2			1						
	都市建築史	1前	2			1						
	構造デザイン論	1後	2			1						
	建築設計・計画特論Ⅰ	1前	2								1	
	建築設計・計画特論Ⅱ	1前	2								1	
	住居・建築・都市計画特論	1前	2								1	
	建築歴史・意匠特論	1前	2								1	
	建築構造特論	1後	2								1	
	建築環境特論	1後	2								1	
小計(15科目)	-	0	30	0	8	1	0	0	0	0	6	
演習・実習科目	建築設計スタジオⅠ	1前	2								1	
	建築設計スタジオⅡ	2前	2								1	
	建築設計スタジオⅢ	1通	4			1						
	インターンシップⅠ	1前・後	4			9	1					
	インターンシップⅡ	2通	8			9	1					
小計(5科目)	-	0	20	0	9	1	0	0	0	0	2	
修士論文・修士制作関連科目	住居・建築計画論演習Ⅰ	1後	2				1					
	ユニバーサル環境論演習Ⅰ	1後	2			1						
	住居設計論演習Ⅰ	1後	2			1						
	防災・安全性能論演習Ⅰ	1後	2			1						
	都市建築史演習Ⅰ	1後	2			1						
	都市・地域居住論演習Ⅰ	1後	2			1						
	建築論演習Ⅰ	1後	2			1						
	環境・設備システム論演習Ⅰ	1後	2			1						
	保存再生論演習Ⅰ	1後	2			1						
	構造デザイン論演習Ⅰ	1後	2			1						
	住居・建築計画論演習Ⅱ	2通	4				1					
	ユニバーサル環境論演習Ⅱ	2通	4			1						
	住居設計論演習Ⅱ	2通	4			1						
	防災・安全性能論演習Ⅱ	2通	4			1						
	都市建築史演習Ⅱ	2通	4			1						
	都市・地域居住論演習Ⅱ	2通	4			1						
	建築論演習Ⅱ	2通	4			1						
	環境・設備システム論演習Ⅱ	2通	4			1						
	保存再生論演習Ⅱ	2通	4			1						
	構造デザイン論演習Ⅱ	2通	4			1						
特別研究	2通	10			9	1						
小計(21科目)	-	10	60	0	9	1	0	0	0	0	0	
合計(42科目)	-	12	110	0	9	1	0	0	0	0	8	
卒業要件及び履修方法												
2年以上在学し、必修科目12単位、修士論文・修士制作関連科目から指導教員の担当する演習科目ⅠおよびⅡ合計6単位を含めて選択科目24単位、合計36単位以上を修得すること。また、必要な研究指導を受けた上、修士論文または修士制作を提出し、審査および最終試験に合格すること。 (履修科目の登録の上限：なし)												

【令和7年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
研究科共通科目	建築デザイン研究	1前	2			10	2					
	小計(1科目)	-	2	0	0	10	2	0	0	0	0	
講義科目	住居・建築計画論	1前	2				1					
	ユニバーサル環境論	1前	2			1						
	防災・安全性能論	1後	2			1						
	保存再生論	1後	2			1						
	都市・地域居住論	1前	2			1						
	建築論	1前	2			1						
	環境・設備システム論	1後	2			1						
	都市建築史	1前	2			1						
	構造デザイン論	1後	2			1						
	建築設計論	1後	2						1			
	建築意匠論	1後	2							1		
	建築設計・計画特論Ⅰ	1後	2								1	
	建築設計・計画特論Ⅱ	1前	2								2	
	住居・建築・都市計画特論	1前	2								1	
	建築歴史・意匠特論	1後	2								1	
	建築構造特論	1後	2								2	
	建築環境特論	1後	2								2	
小計(17科目)	-	0	34	0	9	2	0	0	0	0	9	
演習・実習科目	建築設計スタジオⅠ	1前	2									1
	建築設計スタジオⅡ(未開講)	2前	2									
	建築設計スタジオⅢ	1通	4			1						
	インターンシップⅠ	1前・後	4			9	1					
	インターンシップⅡ	2通	8			9	1					
小計(5科目)	-	0	20	0	9	1	0	0	0	0	1	
修士論文・修士制作関連科目	住居・建築計画論演習Ⅰ	1後	2				1					
	ユニバーサル環境論演習Ⅰ	1後	2			1						
	住居設計論演習Ⅰ	1後	2			1						
	防災・安全性能論演習Ⅰ	1後	2			1						
	都市建築史演習Ⅰ	1後	2			1						
	都市・地域居住論演習Ⅰ	1後	2			1						
	建築論演習Ⅰ	1後	2			1						
	環境・設備システム論演習Ⅰ	1後	2			1						
	保存再生論演習Ⅰ	1後	2			1						
	構造デザイン論演習Ⅰ	1後	2			1						
	建築設計論演習Ⅰ	1後	2						1			
	建築意匠論演習Ⅰ	1後	2							1		
	住居・建築計画論演習Ⅱ	2通	4							1		
	ユニバーサル環境論演習Ⅱ	2通	4			1						
	住居設計論演習Ⅱ	2通	4			1						
	防災・安全性能論演習Ⅱ	2通	4			1						
	都市建築史演習Ⅱ	2通	4			1						
	都市・地域居住論演習Ⅱ	2通	4			1						
	建築論演習Ⅱ	2通	4			1						
	環境・設備システム論演習Ⅱ	2通	4			1						
保存再生論演習Ⅱ	2通	4			1							
構造デザイン論演習Ⅱ	2通	4			1							
建築設計論演習Ⅱ	2通	4						1				
建築意匠論演習Ⅱ	2通	4							1			
特別研究	2通	10			10	2						
小計(25科目)	-	10	68	0	10	2	0	0	0	0	0	
合計(48科目)	-	12	122	0	10	2	0	0	0	0	11	
卒業要件及び履修方法												
2年以上在学し、必修科目12単位、修士論文・修士制作関連科目から指導教員の担当する演習科目ⅠおよびⅡ合計6単位を含めて選択科目24単位、合計36単位以上を修得すること。また、必要な研究指導を受けた上、修士論文または修士制作を提出し、審査および最終試験に合格すること。 (履修科目の登録の上限：なし)												

【令和6年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
研究科目	建築デザイン研究	1前	2			10	2					
	小計(1科目)		2	0	0	10	2	0	0	0	0	
講義科目	住居・建築計画論	1前	2				1					
	ユニバーサル環境論	1前	2			1						
	防災・安全性能論	1後	2			1						
	保存再生論	1後	2			1						
	都市・地域居住論	1前	2			1						
	建築論	1前	2			1						
	環境・設備システム論	1後	2			1						
	都市建築史	1前	2			1						
	構造デザイン論	1後	2			1						
	建築設計論	1後	2			1						
	建築意匠論	1後	2				1					
	建築設計・計画特論Ⅰ	1後	2								1	
	建築設計・計画特論Ⅱ	1前	2								2	
	住居・建築・都市計画特論	1前	2								1	
	建築歴史・意匠特論	1前	2								1	
	建築構造特論	1前	2								2	
	建築環境特論	1後	2								2	
小計(17科目)		-	0	34	0	9	2	0	0	0	9	
演習・実習科目	建築設計スタジオⅠ(未開講)	1前		2							1	
	建築設計スタジオⅡ	2前		2							1	
	建築設計スタジオⅢ	1通		4		1						
	インターンシップⅠ	1前・後		4		9	1					
	インターンシップⅡ	2通		8		9	1					
	小計(5科目)		-	0	20	0	9	1	0	0	0	2
修士論文・修士制作関連科目	住居・建築計画論演習Ⅰ	1後		2			1					
	ユニバーサル環境論演習Ⅰ	1後		2		1						
	住居設計論演習Ⅰ	1後		2		1						
	防災・安全性能論演習Ⅰ	1後		2		1						
	都市建築史演習Ⅰ	1後		2		1						
	都市・地域居住論演習Ⅰ	1後		2		1						
	建築論演習Ⅰ	1後		2		1						
	環境・設備システム論演習Ⅰ	1後		2		1						
	保存再生論演習Ⅰ	1後		2		1						
	構造デザイン論演習Ⅰ	1後		2		1						
	建築設計論演習Ⅰ	1後		2		1						
	建築意匠論演習Ⅰ	1後		2			1					
	住居・建築計画論演習Ⅱ	2通		4			1					
	ユニバーサル環境論演習Ⅱ	2通		4		1						
	住居設計論演習Ⅱ	2通		4		1						
	防災・安全性能論演習Ⅱ	2通		4		1						
	都市建築史演習Ⅱ	2通		4		1						
	都市・地域居住論演習Ⅱ	2通		4		1						
	建築論演習Ⅱ	2通		4		1						
	環境・設備システム論演習Ⅱ	2通		4		1						
	保存再生論演習Ⅱ	2通		4		1						
	構造デザイン論演習Ⅱ	2通		4		1						
	建築設計論演習Ⅱ	2通		4		1						
	建築意匠論演習Ⅱ	2通		4			1					
	特別研究	2通	10			10	2					
小計(25科目)		-	10	68	0	10	2	0	0	0	0	
合計(48科目)		-	12	122	0	10	2	0	0	0	11	
卒業要件及び履修方法												
2年以上在学し、必修科目12単位、修士論文・修士制作関連科目から指導教員の担当する演習科目ⅠおよびⅡ合計6単位を含めて選択科目24単位、合計36単位以上を修得すること。また、必要な研究指導を受けた上、修士論文または修士制作を提出し、審査および最終試験に合格すること。 (履修科目の登録の上限：なし)												

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
なお、設置認可時又は届出時、改正前大学設置基準(令和4年10月1日施行前)に基づき、対象学部等を設置している場合、改正後大学設置基準等(令和4年10月1日施行)の適用以前については、改正前様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「基幹教員等の配置」欄は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員等の配置」としてください。
 - ・ 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員以外の教員(助手を除く)」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員以外の教員(助手を除く)」としてください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には設置認可時又は届出時の授業科目全て(基幹教員(大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は「専任教員」)以外の教員(助手を除く)(改正後大学設置基準等の適用以前は兼任、兼任教員)が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。
その上で、各年度については、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字**としてください。
なお、設置認可時又は届出時、改正前大学設置基準等(令和4年10月1日施行前)に基づき、対象学部等を設置している場合、「認可時又は届出時」の「主要授業科目」欄は削除し、「基幹教員等の配置」欄は「専任教員等の配置」、「基幹教員以外の教員(助手を除く)」欄は「兼任・兼任」としてください。その上で、各年度については、「基幹教員(大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は「専任教員」)」数は、認可時又は届出時の「専任教員」数との比較において変更となっている箇所、「基幹教員以外の教員(助手を除く)(大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は「専任教員以外の教員(助手を除く)」)」数は、認可時又は届出時の「兼任・兼任」数との比較において変更となっている箇所を**太字の赤字**としてください。
(専任教員から基幹教員に変更したことをもって太字の赤字とする必要はありません。)
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(令和6年度開設であれば令和5年度以前)の表は適宜削除してください。
(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
 - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、旧カリキュラムについても記載してください。
その場合は、新カリキュラムを全て記載したのち、最後に記載欄を追加し、年度ごとに記載してください。
新旧がある年度については、その別がわかるように各年度の右側に(新)又は(旧)と追記してください。
(例:記載順)【認可時又は届出時】→【令和7年度(新)】→【令和6年度(新)】→【令和5年度】→【令和4年度】→【令和7年度(旧)】→【令和6年度(旧)】

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和6年度】

- ・教育課程の充実を図るため専任教員を追加したことにより、教授は「9」→「10」、准教授は「1」→「2」に変更。
- ・専任教員の追加により、講義科目に「建築設計論」、「建築意匠論」を追加。
- ・専任教員の追加により、修士論文・修士制作関連科目に「建築設計論演習Ⅰ」、「建築設計論演習Ⅱ」、「建築意匠論演習Ⅰ」、「建築意匠論演習Ⅱ」を追加。
- ・専任教員の追加により、担当者を追加。
「建築デザイン研究」（教授9、准教授1→教授10、准教授2）、「特別研究」（教授9、准教授1→教授10、准教授2）
- ・担当教員の見直しにより、担当者を追加。
「建築設計・計画特論Ⅱ」（兼1→兼2）、「建築構造特論」（兼1→兼2）、「建築環境特論」（兼1→兼2）

【令和7年度】

- ・開講期間の見直しにより、開講期を変更。
「建築歴史・意匠特論」（1前→1後）、「建築構造特論」（1前→1後）
- ・担当教員の見直しにより、担当者を変更。
「建築設計・計画特論Ⅰ」（兼1→兼1）、「建築設計・計画特論Ⅱ」（兼2→兼2）、「住居・建築・都市計画特論」（兼1→兼1）、「建築歴史・意匠特論」（兼1→兼1）、「建築構造特論」（兼2→兼2）、「建築環境特論」（兼2→兼2）、「建築設計スタジオⅠ」（兼1→兼2）、「建築設計スタジオⅢ」（教授1→兼1）

- (注)・ 2 (1) -① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、基幹教員等の配置の変更、主要授業科目の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。
変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。また、改正後大学設置基準（令和4年10月1日施行）の適用により、専任教員から基幹教員に変更した場合（例：「専任教員 教授1」から「基幹教員 教授1」に変更）や、兼任・兼担教員から基幹教員以外の教員に変更した場合（例：「兼任教員1」から「基幹教員以外の教員1」に変更）については、記入しないでください。
 - ・ 不要な年度（令和6年度開設であれば令和5年度以前）の表は適宜削除してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、新旧の変更内容をそれぞれ1つの枠内に記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
2 科目	40 科目	0 科目	42 科目	2 科目 [±0]	46 科目 [+6]	0 科目 [±0]	48 科目 [+6]	

- (注)・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)
- ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「変更状況」には変更後のカリキュラム（新カリキュラム）の授業科目数及び設置時の計画からの増減を記入するとともに、「備考」に変更前のカリキュラム（旧カリキュラム）の授業科目数と設置時の計画からの増減を記入してください。

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1	建築設計スタジオⅡ	2	2	専門	選択	隔年開講（令和8年度開講予定）
2						
3						

- (注)・配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
 - ・該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注)・設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
 - ・該当がない場合は「廃止の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

隔年開講科目「建築設計スタジオⅠ」及び「建築設計スタジオⅡ」は、年度で互い違いに開講・休講する。学生へは、年度当初より配付の「大学院要覧」に記載して周知している。

- (注)・授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{1}{42} = \boxed{2.38} \%$$

(注)・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3) 未開講科目」と「(4) 廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考			
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	借用面積：1,717.12㎡ 借用期間：30年 国土調査による登記面積変更のため(6)			
	校舎敷地	237,727.76㎡	0㎡	0㎡	237,727.76㎡				
	そ の 他	26,954.81㎡ 27,294.90㎡	0㎡	0㎡	26,954.81㎡ 27,294.90㎡				
	合 計	264,682.57㎡ 265,022.66㎡	0㎡	0㎡	264,682.57㎡ 265,022.66㎡				
(2) 校舎	専 用	82,807.19㎡ (82,807.19㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	82,807.19㎡ (82,807.19㎡)	大学全体			
	講義室		実験・実習室	演習室	新設研究科等の専任教員研究室		大学全体 教室の用途変更のため(7)		
(3) 講義室等・新設研究科等の専任教員研究室		87室 88室 87室	175室 176室	24室 25室 27室	10室 13室				
(4) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書		学術雑誌		機械・器具 標本 点 点	専攻単位での特定不能のため、大学全体の数(図書及び学術雑誌は研究室などの所蔵を含む)		
		〔うち外国書〕冊	電子図書〔うち外国書〕	〔うち外国書〕種	電子ジャーナル〔うち外国書〕				
	建築デザイン研究科 建築デザイン専攻(M)	916,411 [207,540] (905,552 [206,397])	[] ([])	20,028 [3,724] (20,028 [3,724])	30,789 [29,233] (30,789 [29,233])	0 (-)		0 (-)	
	計	916,411 [207,540] (905,552 [206,397])	[] ([])	20,028 [3,724] (20,028 [3,724])	30,789 [29,233] (30,789 [29,233])	0 (-)		0 (-)	
(5) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	図書費には電子ジャーナル・データベースの整備費(運用コストを含む)を含む。 物価高騰等対応のため学費改定(7)
		教員1人当たり研究費等	446千円	446千円	図書購入費	1,423千円	712千円	1,423千円	
	共同研究費等	2,135千円	4,269千円	設備購入費	841千円	421千円	841千円		
	学生1人当り納付金	第1年次 1,000千円 1,030千円	第2年次 800千円 830千円	第3年次 — 千円	第4年次 — 千円	第5年次 — 千円	第6年次 — 千円		
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常費補助金、手数料収入、寄付金収入、資産運用収入等							

(注)・設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の2)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)

- ・「(4)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には報告年度の5月1日現在の数値を記入してください。
- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(6)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・校舎等建物の計画の変更(校舎の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
- ・国立大学については「(5)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況

大学の名称	日本女子大学							収容定員充足率0.7倍以下の学科数	2	収容定員充足率1.15倍以上の学科数	0
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	収容定員充足率(控除後)	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	備考
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度		
家政学部	4	267	0	1,089	-	1.04	1.02	-	昭和23	-	
児童学科	4	97	0	388	学士(家政学)	1.03	1.02	-	昭和23	東京都文京区目白2丁目9番1号	
食物学科	4	-	-	-	学士(家政学)	-	-	-	昭和23	同上	令和7年度より学生募集停止
食物学専攻	4	-	-	-	学士(家政学)	-	-	-	昭和42	同上	
管理栄養士専攻	4	-	-	-	学士(家政学)	-	-	-	昭和42	同上	
住居学科	4	-	-	-	学士(家政学)	-	-	-	昭和37	同上	令和6年度より学生募集停止
居住環境デザイン専攻	4	-	-	-	学士(家政学)	-	-	-	平成13	同上	
建築デザイン専攻	4	-	-	-	学士(家政学)	-	-	-	平成22	同上	
被服学科	4	85	0	361	学士(家政学)	1.08	1.04	-	昭和37	同上	令和7年度から入学定員変更(92→85)
家政経済学科	4	85	0	340	学士(家政学)	1.01	1.00	-	昭和39	同上	
文学部	4	353	0	1,476	-	1.07	1.04	-	昭和23	-	
日本文学科	4	126	0	520	学士(文学)	1.09	1.07	-	昭和23	同上	令和6年度から入学定員変更(134→126)
英文学科	4	130	0	568	学士(文学)	1.03	1.00	-	昭和23	同上	令和7年度から入学定員変更(146→130)
史学科	4	97	0	388	学士(文学)	1.10	1.08	-	昭和23	同上	
人間社会学部	4	380	0	1,472	-	1.02	1.01	-	平成2	-	
現代社会学科	4	105	0	396	学士(社会学)	0.99	-	-	平成2	同上	令和7年度から入学定員変更(97→105)
社会福祉学科	4	97	0	388	学士(社会学)	1.03	1.03	-	昭和23	同上	
教育学科	4	97	0	388	学士(教育学)	1.04	1.03	-	昭和25	同上	
心理学科	4	81	0	300	学士(心理学)	1.02	1.00	-	平成2	同上	令和7年度から入学定員変更(73→81)
文化学科	4	-	-	-	学士(文学)	-	-	-	平成2	同上	令和5年度より学生募集停止
理学部	4	189	0	756	-	1.00	-	-	平成4	-	
数物情報科学科	4	92	0	368	学士(理学)	1.04	1.02	-	平成4	同上	
化学生命科学科	4	97	0	388	学士(理学)	0.95	-	-	平成4	同上	
国際文化学部	4	121	0	363	-	0.99	-	-	令和5	-	
国際文化学科	4	121	0	363	学士(文学)	0.99	-	-	令和5	同上	
建築デザイン学部	4	100	0	200	-	1.03	-	-	令和6	-	
建築デザイン学科	4	100	0	200	学士(建築デザイン)	1.03	-	-	令和6	同上	
食科学部	4	88	0	88	-	0.95	-	-	令和7	-	
食科学科	4	38	0	38	学士(食科学)	1.00	-	-	令和7	同上	
栄養学科	4	50	0	50	学士(栄養学)	0.92	-	-	令和7	同上	
大学全体	-	1,498	0	5,992	-	-	-	-	-	-	
家政学部(通信教育課程)	4	40	2年次10 3年次150	3,200	-	0.12	-	-	昭和24	-	
児童学科	4	40	2年次10 3年次150	3,200	学士(家政学)	0.12	-	-	昭和24	同上	令和7年度から入学・編入学定員変更(1,000→40、2年次10、3年次150)
食物学科	4	-	-	-	学士(家政学)	-	-	-	昭和24	同上	令和7年度より学生募集停止
生活芸術学科	4	-	-	-	学士(家政学)	-	-	-	昭和24	同上	令和6年度より学生募集停止
食科学部(通信教育課程)	4	40	2年次40 3年次40	120	-	0.58	-	-	令和7	同上	
食科学科	4	40	2年次40 3年次40	120	学士(食科学)	0.58	-	-	令和7	同上	
大学(通信教育課程)全体	-	80	2年次50 3年次190	3,120	-	-	-	-	-	-	

- (注)・本調査の対象となっている大学、短期大学及び高等専門学校（以下「大学等」という。）について、既に設置している学部等（短期大学、高等専門学校にあっては学科等）の報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。（大学院、専攻科及び別科を除く）
- なお、本調査の対象となっている大学等の設置者が設置している他の大学等の状況については、記入する必要はありません。
- ・記載項目以外、保護をかけています。不要な行は、「非表示」設定としてください。また、記載する必要がない学校種の記載欄については、「入学定員超過率」及び「収容定員充足率」が0.7倍以下又は1.15倍以上の学科数を記入する項目を「-」とした上で、「非表示」設定としてください。
 - ・学部の学科等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
 - ※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。
履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度A Cの対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「収容定員充足率」には、報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。
開設後、完成年度を迎えていない学科等については、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記載してください。
算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引（令和8年度開設用）IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。
 - ・「収容定員充足率（控除後）」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。
なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「-」としてください。
 - ・「収容定員充足率（控除後含む）」は、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
また、0.7倍以下又は1.15倍以上の**学科**については、必ず太字にしてください。当該設定は、学科のみとし、学部及び専攻を太字にする必要はありません。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。
 - ・「所在地」及び「備考」欄については、セルの結合ではなく、書式設定より設定の上、文字サイズ変更を行ってください。
詳しくは、本シート右に記載のコメント機能で操作方法を案内していますのでご参照ください。

5 教育研究実施組織の状況

<建築デザイン研究科 建築デザイン専攻 (M) >

(1) -① 担当教員表

【認可時又は届出時】

【令和6年度】

【令和7年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	江尻 憲泰 <令和6年4月> 工学修士
		建築デザイン研究 構造デザイン論 構造デザイン論演習Ⅰ 構造デザイン論演習Ⅱ インターンシップⅠ インターンシップⅡ 特別研究
専	教授	片山 伸也 <令和6年4月> 博士(美術)
		建築デザイン研究 都市建築史 都市建築史演習Ⅰ 都市建築史演習Ⅱ インターンシップⅠ インターンシップⅡ 特別研究
専	教授	是澤(野村) 紀子 <令和6年4月> 博士(工学)
		建築デザイン研究 保存再生論 保存再生論演習Ⅰ 保存再生論演習Ⅱ インターンシップⅠ インターンシップⅡ 特別研究
専	教授	佐藤 克志 <令和6年4月> 工学修士
		建築デザイン研究 ユニバーサル環境論 ユニバーサル環境論演習Ⅰ ユニバーサル環境論演習Ⅱ インターンシップⅠ インターンシップⅡ 特別研究
専	教授	篠原(隈) 聡子 <令和6年4月> 家政学修士
		建築デザイン研究 建築設計スタジオⅢ 住居設計論演習Ⅰ 住居設計論演習Ⅱ インターンシップⅠ インターンシップⅡ 特別研究
専	教授	平田 京子 <令和6年4月> 博士(学術)
		建築デザイン研究 防災・安全性能論 防災・安全性能論演習Ⅰ 防災・安全性能論演習Ⅱ インターンシップⅠ インターンシップⅡ 特別研究

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	江尻 憲泰 <令和6年4月> 工学修士
		建築デザイン研究 構造デザイン論 構造デザイン論演習Ⅰ 構造デザイン論演習Ⅱ インターンシップⅠ インターンシップⅡ 特別研究
専	教授	片山 伸也 <令和6年4月> 博士(美術)
		建築デザイン研究 都市建築史 都市建築史演習Ⅰ 都市建築史演習Ⅱ インターンシップⅠ インターンシップⅡ 特別研究
専	教授	是澤(野村) 紀子 <令和6年4月> 博士(工学)
		建築デザイン研究 保存再生論 保存再生論演習Ⅰ 保存再生論演習Ⅱ インターンシップⅠ インターンシップⅡ 特別研究
専	教授	佐藤 克志 <令和6年4月> 工学修士
		建築デザイン研究 ユニバーサル環境論 ユニバーサル環境論演習Ⅰ ユニバーサル環境論演習Ⅱ インターンシップⅠ インターンシップⅡ 特別研究
専	教授	篠原(隈) 聡子 <令和6年4月> 家政学修士
		建築デザイン研究 建築設計スタジオⅢ 住居設計論演習Ⅰ 住居設計論演習Ⅱ インターンシップⅠ インターンシップⅡ 特別研究
専	教授	平田 京子 <令和6年4月> 博士(学術)
		建築デザイン研究 防災・安全性能論 防災・安全性能論演習Ⅰ 防災・安全性能論演習Ⅱ インターンシップⅠ インターンシップⅡ 特別研究

教員区分	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	江尻 憲泰 <令和6年4月> 工学修士
		建築デザイン研究 構造デザイン論 構造デザイン論演習Ⅰ 構造デザイン論演習Ⅱ インターンシップⅠ インターンシップⅡ 特別研究
専	教授	片山 伸也 <令和6年4月> 博士(美術)
		建築デザイン研究 都市建築史 都市建築史演習Ⅰ 都市建築史演習Ⅱ インターンシップⅠ インターンシップⅡ 特別研究
専	教授	是澤(野村) 紀子 <令和6年4月> 博士(工学)
		建築デザイン研究 保存再生論 保存再生論演習Ⅰ 保存再生論演習Ⅱ 都市・地域居住論演習Ⅱ インターンシップⅠ インターンシップⅡ 特別研究
専	教授	佐藤 克志 <令和6年4月> 工学修士
		建築デザイン研究 ユニバーサル環境論 ユニバーサル環境論演習Ⅰ ユニバーサル環境論演習Ⅱ インターンシップⅠ インターンシップⅡ 特別研究
専	教授	篠原(隈) 聡子 <令和6年4月> 家政学修士
		建築デザイン研究 住居設計論演習Ⅰ 住居設計論演習Ⅱ インターンシップⅠ インターンシップⅡ 特別研究
専	教授	平田 京子 <令和6年4月> 博士(学術)
		建築デザイン研究 防災・安全性能論 防災・安全性能論演習Ⅰ 防災・安全性能論演習Ⅱ インターンシップⅠ インターンシップⅡ 特別研究

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	細井 昭憲 <令和6年4月> 博士(工学)
		建築デザイン研究 環境・設備システム論 環境・設備システム論演習Ⅰ 環境・設備システム論演習Ⅱ インターンシップⅠ インターンシップⅡ 特別研究
専	教授	葉袋 奈美子 <令和6年4月> 博士(工学)
		建築デザイン研究 都市・地域居住論 都市・地域居住論演習Ⅰ 都市・地域居住論演習Ⅱ インターンシップⅠ インターンシップⅡ 特別研究
専	教授	宮 晶子 <令和6年4月> 家政学士
		建築デザイン研究 建築論 建築論演習Ⅰ 建築論演習Ⅱ インターンシップⅠ インターンシップⅡ 特別研究
専	准教授	井本(堀田) 佐保里 <令和6年4月> 博士(工学)
		建築デザイン研究 住居・建築計画論 住居・建築計画論Ⅰ 住居・建築計画論Ⅱ インターンシップⅠ インターンシップⅡ 特別研究
兼任	講師	井口 雅登 <令和6年9月> 博士(工学)
		建築環境特論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	細井 昭憲 <令和6年4月> 博士(工学)
		建築デザイン研究 環境・設備システム論 環境・設備システム論演習Ⅰ 環境・設備システム論演習Ⅱ インターンシップⅠ インターンシップⅡ 特別研究
専	教授	葉袋 奈美子 <令和6年4月> 博士(工学)
		建築デザイン研究 都市・地域居住論 都市・地域居住論演習Ⅰ 都市・地域居住論演習Ⅱ インターンシップⅠ インターンシップⅡ 特別研究
専	教授	宮 晶子 <令和6年4月> 家政学士
		建築デザイン研究 建築論 建築論演習Ⅰ 建築論演習Ⅱ インターンシップⅠ インターンシップⅡ 特別研究
専	教授	東 利恵 <令和6年4月> ①工学修士 ②Master of Architecture(アメリカ)
		建築デザイン研究 建築設計論 建築設計論演習Ⅰ 建築設計論演習Ⅱ 特別研究
専	准教授	井本(堀田) 佐保里 <令和6年4月> 博士(工学)
		建築デザイン研究 住居・建築計画論 住居・建築計画論Ⅰ 住居・建築計画論Ⅱ インターンシップⅠ インターンシップⅡ 特別研究
専	准教授	キャズ・T・ヨネダ <令和6年4月> Master of Architecture2(アメリカ)
		建築デザイン研究 建築意匠論 建築意匠論演習Ⅰ 建築意匠論演習Ⅱ 特別研究
兼任	講師	井口 雅登 <令和6年9月> 博士(工学)
		建築環境特論
兼任	講師	太田 望 <令和6年4月> 修士(工学)
		建築環境特論

教員区分	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	細井 昭憲 <令和6年4月> 博士(工学)
		建築デザイン研究 環境・設備システム論 環境・設備システム論演習Ⅰ 環境・設備システム論演習Ⅱ インターンシップⅠ インターンシップⅡ 特別研究
専	教授	葉袋 奈美子 <令和6年4月> 博士(工学) 令和7年9月22日~令和8年3月31日
		建築デザイン研究 都市・地域居住論 都市・地域居住論演習Ⅰ 都市・地域居住論演習Ⅱ インターンシップⅠ インターンシップⅡ 特別研究
専	教授	宮 晶子 <令和6年4月> 家政学士
		建築デザイン研究 建築論 建築論演習Ⅰ 建築論演習Ⅱ インターンシップⅠ インターンシップⅡ 特別研究
専	教授	東 利恵 <令和6年4月> ①工学修士 ②Master of Architecture(アメリカ)
		建築デザイン研究 建築設計論 建築設計論演習Ⅰ 建築設計論演習Ⅱ 特別研究
専	准教授	井本(堀田) 佐保里 <令和6年4月> 博士(工学)
		建築デザイン研究 住居・建築計画論 住居・建築計画論Ⅰ 住居・建築計画論Ⅱ インターンシップⅠ インターンシップⅡ 特別研究
専	准教授	キャズ・T・ヨネダ <令和6年4月> Master of Architecture2(アメリカ)
		建築デザイン研究 建築意匠論 建築意匠論演習Ⅰ 建築意匠論演習Ⅱ 特別研究
兼任	講師	井口 雅登 <令和6年9月> 博士(工学)
		建築環境特論
兼任	講師	編飼 真成 <令和7年4月> 博士(工学)
		建築環境特論
兼任	講師	太田 望 <令和6年4月> 修士(工学)
		建築環境特論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	小泉 秀樹 <令和6年4月> 博士(工学) 住居・建築・都市計画特論
兼任	講師	坂牛 卓 <令和6年4月> 博士(工学) 建築設計・計画特論Ⅱ
兼任	講師	妹島 和世 <令和6年4月> 家政学修士 建築設計スタジオⅠ
兼任	講師	西岡 聡 <令和6年9月> 工学修士 建築構造特論
兼任	講師	比嘉 武彦 <令和7年4月> 工学士 建築設計スタジオⅡ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	奥山 信一 <令和6年4月> 博士(工学) 建築設計・計画特論Ⅱ
兼任	講師	橋本 純 <令和6年4月> 工学修士 建築設計・計画特論Ⅱ
兼任	講師	妹島 和世 <令和7年4月> 家政学修士 建築設計スタジオⅠ
兼任	講師	西岡 聡 <令和6年4月> 工学修士 建築構造特論
兼任	講師	比嘉 武彦 <令和6年4月> 工学士 建築設計スタジオⅡ

教員区分	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	佐藤 慎也 <令和7年4月> 博士(工学) 住居・建築・都市計画特論
兼任	講師	坂牛 卓 <令和7年4月> 博士(工学) 建築設計・計画特論Ⅱ
兼任	講師	萩原 剛 <令和7年4月> 修士(工学) 建築設計・計画特論Ⅱ
兼任	講師	松沢 一応 <令和7年4月> 修士(工学) 建築設計スタジオⅠ
兼任	講師	降矢 宜幸 <令和7年4月> 修士(理工学研究科) 建築設計スタジオⅠ
兼任	講師	今本 啓一 <令和7年9月> 工学博士 建築構造特論
兼任	講師	与那横 仁志 <令和7年9月> 工学博士 建築構造特論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	藤川 昌樹 <令和6年4月> 博士(工学) 建築歴史・意匠特論
兼任	講師	Azby Brown <令和6年4月> 工学修士※ 建築設計・計画特論 I

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	藤川 昌樹 <令和6年4月> 博士(工学) 建築歴史・意匠特論
兼任	講師	村上 暁信 <令和6年4月> 博士(農学) 住居・建築・都市計画特論
兼任	講師	山田 憲明 <令和6年4月> 工学士 建築構造特論
兼任	講師	Azby Brown <令和6年9月> 工学修士※ 建築設計・計画特論 I

教員区分	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	津川 恵理 <令和7年4月> 修士(建築学) 建築設計スタジオⅢ
兼任	講師	上野 勝久 <令和7年9月> 博士(工学) 建築歴史・意匠特論
兼任	講師	フロリアン・ブッシュ <令和7年9月> 修士(AADRL) 建築設計・計画特論 I

(注) 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)

- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)(その2の2)(その2の3)に準じて作成してください。
なお、設置認可時又は届出時、改正前大学設置基準等(令和4年10月1日施行前)に基づき、対象学部等を設置している場合、改正後大学設置基準(改正前様式第3号(その2の1))に準じて作成してください。
- ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教員名簿」を確認してください。
- ・ 「認可時又は届出時」には設置認可時又は届出時の教員全て(基幹教員(大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は「専任教員」)以外の教員(助手)の上で、各年度については、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字**としてください。
- ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
- ・ 記載は、設置認可時又は届出時における「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教員名簿」に記載されている「教員区分」(改正後大学設置基準等
改正後大学設置基準等(令和4年10月1日施行)の適用以降については、主要授業科目にあたる「担当授業科目名」に下線を引いてください。
- ・ 教員がサバティカル等で不在の期間がある場合、その期間(年月日)を上段「学位」の下へ記入してください。
- ・ 不要な年度(令和6年度開設であれば令和5年度以前)の表は適宜削除してください。
- ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「担当授業科目名」の上段に変更後のカリキュラム(新カリキュラム)の授業科目名を記

(1) 一②担当教員表に関する変更内容

【令和6年度】

- 専任教員 教育課程の充実を図るため下記教員2名を追加
- ・東理恵教授：特別研究を含め5科目担当
 - ・キャズ・T・ヨネダ准教授：特別研究を含め5科目担当

- 兼任教員
- ・担当教員を一部変更。

【令和7年度】

- 専任教員 担当科目を一部変更
- ・是澤紀子教授：「都市・地域居住論演習Ⅱ」（2通の後期のみ追加）、「特別研究」（2通の後期のみ追加）
 - ・業袋奈美子教授：「都市・地域居住論演習Ⅱ」（2通の前期のみに変更）、「特別研究」（2通の前期のみに変更）、「インターンシップⅠ」（1前の前期のみに変更）、「インターンシップⅡ」（2通の前期のみに変更）

- 兼任教員
- ・担当教員を一部変更。

(注) 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。

- ・ **認可で設置された学部等の基幹（専任）教員を変更する場合は**、当該基幹（専任）教員が授業を開始する前に必ず「基幹（専任）教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（A C教員審査）を受けてください。

原則としてA C教員審査を受けずに基幹（専任）教員として授業等を担当することは出来ません。

なお、改正前大学設置基準等に基づいて認可を受けて設置された学部等が、改正後大学設置基準等への適用のため、大学が基幹教員の要件を満たすと判断した「専任教員」を「基幹教員」とする場合は、A C教員審査を受審する必要はない扱いとしています。（改正後大学設置基準等の適用にあたり、「基幹教員」の担当授業科目を追加する場合、「基幹教員」の担当授業科目の内容を変更するなど、A C教員審査の受審を求めている事由が発生する場合は、A C教員審査を受審する必要があります。）

- ・ A C教員審査の結果、「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。

なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。

- ・ 不要な年度（令和6年度開設であれば令和5年度以前）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要研究指導教員数	うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数	完成年度時における設置基準上の必要研究指導補助教員数
12	7	0
名	名	名

(注)・大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文科省告示第百七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【大学院】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教授	准教授	講師	助教	計(A)	助手(A')	教授	准教授	講師	助教	計(B)	助手(B')
9	1	0	0	10	2	10	2	0	0	12	3
(9)	(1)	(0)	(0)	(10)	(2)						
研究指導教員数		研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数			研究指導教員数		研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数		
うち教授数			うち教授数								
10	9	0	8			12	10	0	11		
(10)	(9)	(0)	(8)			(12)	(10)	(0)	(11)		
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計(C)	助手(C')	教授	准教授	講師	助教	計(D)	助手(D')
10	2	0	0	12	3	10	2	0	0	12	3
[+1]	[+1]	[-]	[-]	[+2]	[+1]	[+1]	[+1]	[-]	[-]	[+2]	[+1]
研究指導教員数		研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数			研究指導教員数		研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数		
うち教授数			うち教授数								
12	10	0	11			12	10	0	11		
[+2]	[+1]	[±0]	[+3]			[+2]	[+1]	[±0]	[+3]		

(注)・「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、認可で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を要審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）
 ・「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢（歳）	報告時（上記(B')）の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記(C')）の教員のうち、定年を延長して採用する教員数
68	0	0
65（助教・助手）		
歳	名	名

(注)・「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づき定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二桁書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{12}{10} = 120\%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{0}{12} = 0\%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{3}{2} = 150\%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 基幹（専任）教員辞任等の理由

(3) - ① 基幹（専任）教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	基幹（専任）教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由
							該当なし
合計 (D)					後任補充状況の集計 (E)		
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目

(注) 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての基幹（専任）教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。

- ・「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ② 基幹（専任）教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに基幹（専任）教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
- ・また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・基幹（専任）教員が担当する（している）場合は「①」
- ・基幹（専任）教員以外の教員（兼任兼担教員）が担当する（している）場合は「②」
- ・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 基幹（専任）教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	基幹（専任）教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由
							該当なし
合計 (F)					後任補充状況の集計 (G)		
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目

(注) 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての基幹（専任）教員について、記入してください。

- ・（学年進行中に基幹教員の要件を満たさなくなったことにより、基幹教員でなくなった教員についても記入してください。）
- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに基幹（専任）教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
- ・また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・基幹（専任）教員が担当する（している）場合は「①」
- ・基幹（専任）教員以外の教員（兼任兼担教員）が担当する（している）場合は「②」
- ・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計 (D) + (F)				後任補充状況の集計 (E) + (G)			
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計}(D) + (F)}{(2) - ② \text{設置時の計画}(A)} = \frac{0}{10} = 0\%$$

(注) ・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 令和6年度報告書から、新たに辞任等した基幹（専任）教員等の状況

0 人

(注) ・(3) - ①、(3) - ②で赤字で記載した基幹（専任）教員数の合計数を記載してください。

- ・令和7年度開設の学科等の場合、(D) + (F) と同数を記載してください。

(3) - ⑥ 定年により退職した基幹（専任）教員に対する後任補充状況

番号	職位	基幹（専任）教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由				
						該当なし				
合計				後任補充状況の集計						
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)		
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注)・ 定年により退職した全ての基幹（専任）教員について、記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに基幹（専任）教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・基幹（専任）教員が担当する（している）場合は「①」 ・基幹（専任）教員以外の教員（兼任兼担教員）が担当する（している）場合は「②」 ・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(4) 基幹（専任）教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注)・ 上記（3）の基幹（専任）教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

- (注)・「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。以下同様。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 認可時または届出時に付された附帯事項に対する履行状況等の記載に当たっては、以下のとおり記載してください。
【令和6年度報告書から記載内容に変更がある場合】
令和6年度報告書の記載内容を転記し文末に「（6）」と記載した上で、変更後の「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「（7）」と記載してください。
【令和6年度報告書から記載内容に変更がない場合】
令和6年度報告書の記載内容を転記し文末に「（6）（7）」と記載してください。
【令和7年度から新たに調査対象となった学科等又は令和6年度設置計画履行状況調査で付された指摘の場合】
「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「（7）」と記載してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的かつ明確に記入**してください。
その履行状況等の参考や根拠となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<建築デザイン研究科 建築デザイン専攻（M）>

（１）設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	

（注）・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

（２）教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <p>本学においては、「本学の建学の精神、教育理念を実現するため、学生の視点に立った継続的な教育改革を教職協働で進め、本学における教育の質の向上に寄与すること」を目的に、教学上の意思決定機関である大学執行部会議の下にJWU女子高等教育センターを設置している。</p> <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）</p> <p>JWU女子高等教育センターは学長が任命したセンター所長、センター委員が出席の上、原則として月1回の会議を開催している。</p> <p>c 委員会の審議事項等</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 将来的な女子高等教育にかかる施策に関すること。 2. 全学的な教育及び学習支援プログラムの企画、開発及び推進に関すること。 3. 全学的な教授内容及び教育手法の改善並びにファカルティ・ディベロップメント（FD）及びスタッフ・ディベロップメント（SD）の推進に関すること。 4. 全学的な教育効果の測定並びに評価方法の開発及び実施に関すること。 5. 教育の国際化、情報化及び教育活動改善のための教育環境の整備に関すること。 6. 国内外の高等教育に係る情報収集、調査及び研究並びに連携に関すること。 7. 教育の質保証及び質的向上・改善等のためのインスティテューショナル・リサーチ（IR）に関すること。 8. その他センターの目的達成のために必要な事業に関すること。 <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業方法・教育方法改善のためのFD研修 2. 新任教員のための新任教員研修 3. 日本女子大学教育賞受賞者によるFD研修 4. アセスメントテスト受験結果報告会 5. ダイバーシティの理解を深めるためのSD研修 6. 学生生活支援を考えるためのSD研修 7. システム関連のSD研修 <p>b 実施方法</p> <p>Zoomによる講演視聴、講演動画の録画視聴、及びオンデマンド動画視聴</p> <p>c 開催状況（教員の参加状況含む）</p> <p><令和6年度></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業方法・教育方法改善のためのFD研修 <ul style="list-style-type: none"> ・リクルート進学総研所長・リクルート「カレッジマネジメント」編集長 小林 浩氏による講演の視聴 ・テーマ「『急激な少子化が進行する中での将来を見据えた高等教育の在り方について』～中教審答申（案）と大学の対応を考える～」（希望する教員による任意参加） 2. 新任教員のための新任教員研修 <ul style="list-style-type: none"> ・2024年度新任教員のみなさまへ（令和6年度新任教員全員が参加） 3. 日本女子大学教育賞受賞者によるFD研修 <ul style="list-style-type: none"> ・日本女子大学教育賞受賞者4名による講演（全教員が参加） 4. アセスメントテスト受験結果報告会 <ul style="list-style-type: none"> ・アセスメント・テスト（PROGテスト）教員向け受検結果報告会（希望する教員による任意参加） 5. ダイバーシティの理解を深めるためのSD研修 <ul style="list-style-type: none"> ・「性の多様性と女子大学」（希望する教員による任意参加／全職員が参加） 6. 不調や悩みを抱える学生の現状と自殺リスクを理解するためのSD研修 <ul style="list-style-type: none"> ・テーマ「学生の自殺行動を防ぐ学内対応」（全教職員が参加） 7. システム関連の研修 <ul style="list-style-type: none"> ・学園システム説明会（希望する教員による任意参加／全職員が参加） ・情報セキュリティ研修（希望する教員による任意参加／全職員が参加） <p>d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況</p>

1. 研修後の参加報告書（研修内容の振り返り、感想、改善点への気づき等）の提出。
2. 本学における学修者本位の教育に向けた取り組みについての情報共有。
3. 優れた教育効果をあげている教員の教育方法及び教育技術の共有。
4. 学科ごとに異なる学生の成長動向に応じた教育活動改善の検討及び促進。
5. トランスジェンダー学生（女性）への出願資格拡大に伴うダイバーシティへの理解促進。
6. 不調や悩みを抱える学生の現状と自殺リスクについての理解促進。
7. 学園システムや情報セキュリティについての理解促進。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

- ・前期及び後期の授業開始後3・4週目を目途に、授業改善に目的を絞った「中間アンケート」を実施。
- ・前期及び後期の各終盤に「学生の達成度自己評価および授業改善のためのアンケート（通称：授業アンケート）」を実施。

b 教員や学生への公開状況、方法等

・教員向け

1. 授業担当者は学生情報システムを通じて担当授業科目の集計結果を閲覧することができる。
2. 学長、大学執行部会議構成員、JWU女子高等教育センター構成員、基盤教育センター長、社会連携教育センター所長及び国際交流センター長は、授業毎の個別データを閲覧することができる。学科長及びカリキュラム管轄委員会委員長は、管轄する全科目の集計結果を閲覧することができる。必要に応じて学科内及び委員会内で集計結果を共有することができる。
3. 教職員のみ閲覧することができるイントラネット上において、学部別の集計報告書を閲覧することができる。

・学生向け

1. 学生情報システムを通じて受講した授業科目の集計結果を閲覧することができる。
2. 大学公式ホームページに集計結果の全体報告書を掲載し、閲覧できるようにしている。

(注)・「① a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

① 体制

a 委員会の設置状況

該当なし

b 委員会の開催状況（回数や開催日など）

該当なし

c 委員会の審議事項等

該当なし

d その他

該当なし

② 審議状況

a 審議した内容

該当なし

b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

該当なし

c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

設置2年目となる令和7年度は、入学定員20人に対して6名超過した26人の入学者を受け入れた。受験者の評価が入学基準に達していたためであるが、教育課程の充実を図るため研究指導が可能な教員2名を追加しており、科目も当初予定より6科目増とするなど、当初予定の教育環境を維持している。FDや研究科委員会等を通じて、本研究科の教育理念や方法等の浸透を図り、学生の研究・教育指導に当たる。

設置初年度の令和6年度も25名の入学者を受け入れているが、総じて、当初の研究科設置の趣旨・目的に沿い、丁寧に学生教育を行うことができている。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

・2024年度日本女子大学点検・評価報告書を令和7年4月9日に公表済み。

b 公表方法

・大学公式ホームページに公表済み <https://www.jwu.ac.jp/unv/about/sr/check.html>

③ 認証評価を受ける計画

- ・令和元年度に公益財団法人大学基準協会による認証評価を受審し、適合認定を受領した。評価結果は大学公式ホームページに公表済み。
- ・評価結果における提言に対する改善報告書を令和5年7月に同協会に提出し、令和6年3月に改善報告書検討結果を受領した。改善報告書、改善報告書検討結果とも大学公式ホームページに公表済み。
- ・次回は令和8年度に評価機関（公益財団法人大学基準協会）の評価を受けるべく、学内で検討中。

(注)・設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和7年度）

a 公表予定の有無 [有 ・ 無]

≪ aで「有」の場合≫

b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [ウェブサイトへの掲載 ・ その他 ()]

≪ aで公表「無」の場合≫

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、

設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。